

平成28年度 第20回 公開シンポジウム

平成29年

2月25日(土)

13:00 ~ 16:00



<会場> **四天王寺大学 大講堂**
四天王寺大学短期大学部
羽曳野市学園前3丁目2-1 (無料駐車場完備)

<定員> **500名**
(先着順・事前申込必要)

開会挨拶 13:00

いわお ひろし
岩尾 洋 (四天王寺大学・四天王寺大学短期大学部 学長)

第1部 基調講演 13:05~14:05

百寿者から学ぶ、高齢期のしあわせのありがた



ごんどう やすゆき
講師 **権藤 恭之** (大阪大学准教授)

- ・1989年3月 関西学院大学文学部心理学科 卒業
- ・1991年3月 関西学院大学大学院文学研究科博士前期課程 修了
- ・1994年3月 関西学院大学大学院文学研究科博士後期課程 単位取得満期退学
- ・2001年12月 博士(心理学・関西学院大学)
- ・1992年7月 財)東京都老人総合研究所心理学部門研究助手
- ・2002年4月 高齢者研究・福祉振興財団老人総合研究所研究員
- ・2007年10月 大阪大学大学院人間科学研究科准教授(現在に至る)
- ・NHK「クローズアップ現代」(2014年)「NHKスペシャル」(2016年)等に出演

第2部 シンポジウム 14:15~15:50

「健やかに老いる」をめざして—心とからだ—

コーディネーター

かざはら さちこ
笠原 幸子 (四天王寺大学教授)

シンポジスト

ごんどう やすゆき
権藤 恭之 (大阪大学准教授)

たかぎ ゆきのぶ
高木 幸延 (羽曳野市体育協会理事
元羽曳野市立小・中学校校長)

なかたに かずき
仲谷 和記 (四天王寺大学教授)

開会挨拶 15:50

きたがわ つくお
北川 嗣雄 (羽曳野市市長)

人は、何歳から「老いる」のでしょうか？ また、年齢を重ねながら、どのように生きることが「健やか」なんでしょうか？ 少子高齢社会「日本」において、このような問いは、老いを実感する世代にとっても、老いを見守る世代にとっても、各家庭においても、社会にとっても切実な課題です。心理学・福祉学・医学の知見から、みなさんとともに考えてみたいと思います。

健すこやかに老おいる



四天王寺大学 50周年
四天王寺大学短期大学部 60周年

主催 / 羽曳野市
羽曳野市教育委員会
四天王寺大学
四天王寺大学短期大学部

健やかに老いる

基調講演

講師

ごん どう やす ゆき
権藤 恭之
大阪大学准教授

百寿者から学ぶ、高齢期のしあわせのありかた

我が国の寿命は戦後伸び続け、現在世界で最も総人口当たりの百寿者の割合が高い国となった。と同時に、長く生きることもネガティブな面も目立ち始め、長寿に対して私たちが持つ印象も悪化してきている。

本講演では、長寿社会日本がおかれた現状と、演者がこれまで行ってきた百寿者研究や高齢者研究の成果を報告する。本報告が参加者の方々が長寿社会のありかたや高齢期のしあわせを考えるきっかけとなれば幸いです。

シンポジウム

「健やかに老いる」をめざして一心とからだー

かさ はら さちこ

コーディネーター **笠原 幸子** (四天王寺大学教授)

総人口が減少するなかで、2017年には後期高齢者人口(75歳以上)は、前期高齢者人口(65歳～74歳)を上回り、高齢者人口は増加を続け、2042年に頂点に達することが推計されています。しかし、高齢者人口が減少する2042年以降も、65歳に達する人口は出生数よりも多いため、高齢化率は上昇を続けます(高齢社会白書平成28年度版)。このような状況において、人が人生のフィナーレの時期において、悔いのない人生をおくりたいというのは共通の思いです。そこで、「健やかに老いる」をメインテーマに、誰もが平等に迎える老いについて、前向きに学ぶためのシンポジウムとなるよう進行していきたいと思ひます。

た か き ゆきのぶ

シンポジスト **高木 幸延** (羽曳野市体育協会理事 元羽曳野市立小・中学校校長)

社会活動や生涯学習を通じての「健やかな老い」

2025年問題が囁かれています。団塊世代が75歳以上の後期高齢者になる年です。私自身団塊世代(昭和23年生)で、今の「サンデー毎日」をいかに生き生きした日々にするかを模索しています。

一に「健康寿命を伸ばし」、二に「夢と希望の生きがい探し」、三に「生活を楽しむ」ことで、笑顔の日々を過ごしたいのです。

そこで、これからの日々を積極的に生きていくことを目指して、地域活動や生涯学習など具体的な実践例をみなさんと一緒に考えましょう。

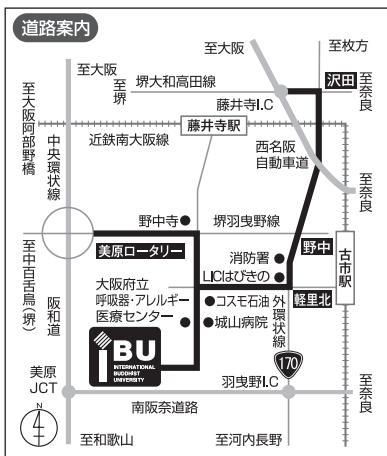
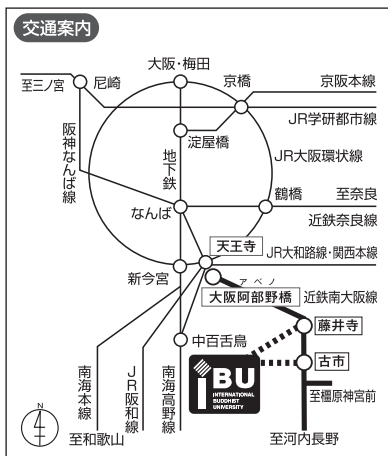
なかに かずき

シンポジスト **仲谷 和記** (四天王寺大学教授)

ほねを元気にしよう！一骨の解剖生理学と骨粗鬆症ー

健やかに老いるためには平均寿命と同様に「健康寿命」も延ばすことが必要です。健康寿命とは、人の寿命において「健康上の問題で日常生活が制限されることなく生活できる」期間をいい、健康寿命と平均寿命との間には、男性で9.13年、女性で12.68年もの差があります(平成26年版厚生労働白書より)。健康寿命を延ばすためには活発に体を動かせるように、手足を含む「運動器」を元気にすることが大切です。今回は、運動器の中でも「骨」を元気にするにはどうしたらよいかを考えていきたいと思ひます。

※権藤 恭之先生には、シンポジウムにも、参加をさせていただきます。



申込み・問合せ先

往復はがきまたは、下記ホームページよりお申込みください。

1. 往復はがきの場合

往信用に ●「公開シンポジウム希望」と明記

- 郵便番号・住所・氏名(ふりがな)・年齢・性別
- 電話番号 を記入の上、お申込みください。

※複数でのお申込みの場合は、連名で記入してください。入場整理券として返信いたしますので、返信用の表書きにも申込者の住所・氏名(連名の場合は代表者名)を記入してください。

2. ホームページの場合

URL <http://www.shitennoji.ac.jp/ibu/exten/>

四天王寺大学 エクステンションセンター
四天王寺大学短期大学部

〒583-8501 大阪府羽曳野市学園前3丁目2-1

TEL **072-956-3345**

